

上京区健康課題と 必要な取組について

平成30年3月9日
上京保健センター運営協議会

上京区の健康課題と必要な取組について

①健康づくり分野

高齢福祉分野

～生活習慣病・フレイル(虚弱)予防・
認知症対策等について～

②障害保健福祉分野

③母子保健分野

～虐待未然防止のための主な取組み～



健康づくり分野

高齢福祉分野

～生活習慣病・フレイル(虚弱)予防・
認知症対策等について～

総人口及び高齢者人口等の推移（京都市）

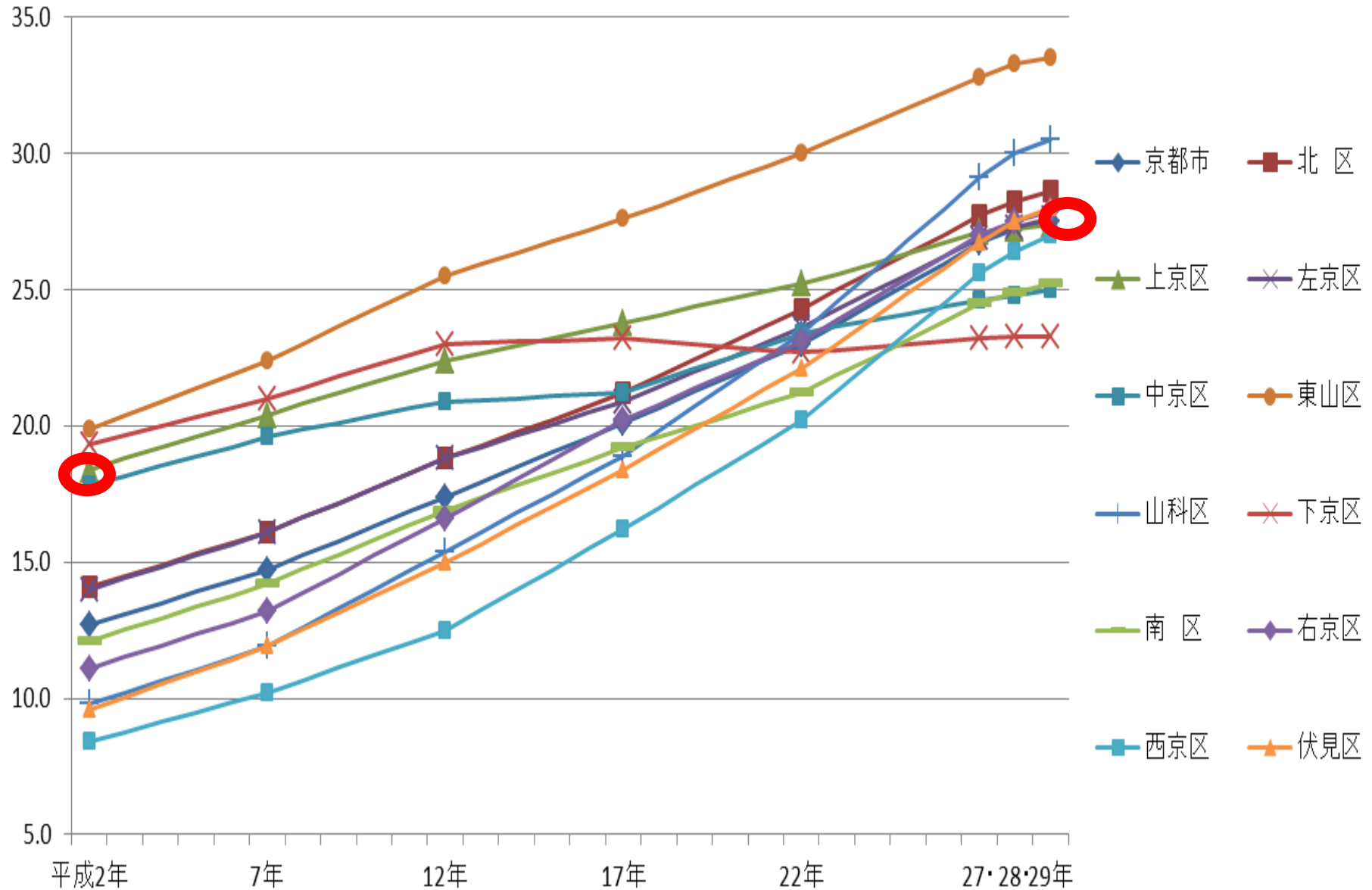
資料：国勢調査（昭和60年～平成22年）

推計人口 京都市総合企画局情報化推進室情報統計担当（平成26年10月）

※ 平成22年の構成比は総人口から年齢不詳を除いて算出している。



行政区別高齢化率の推移 (京都市)

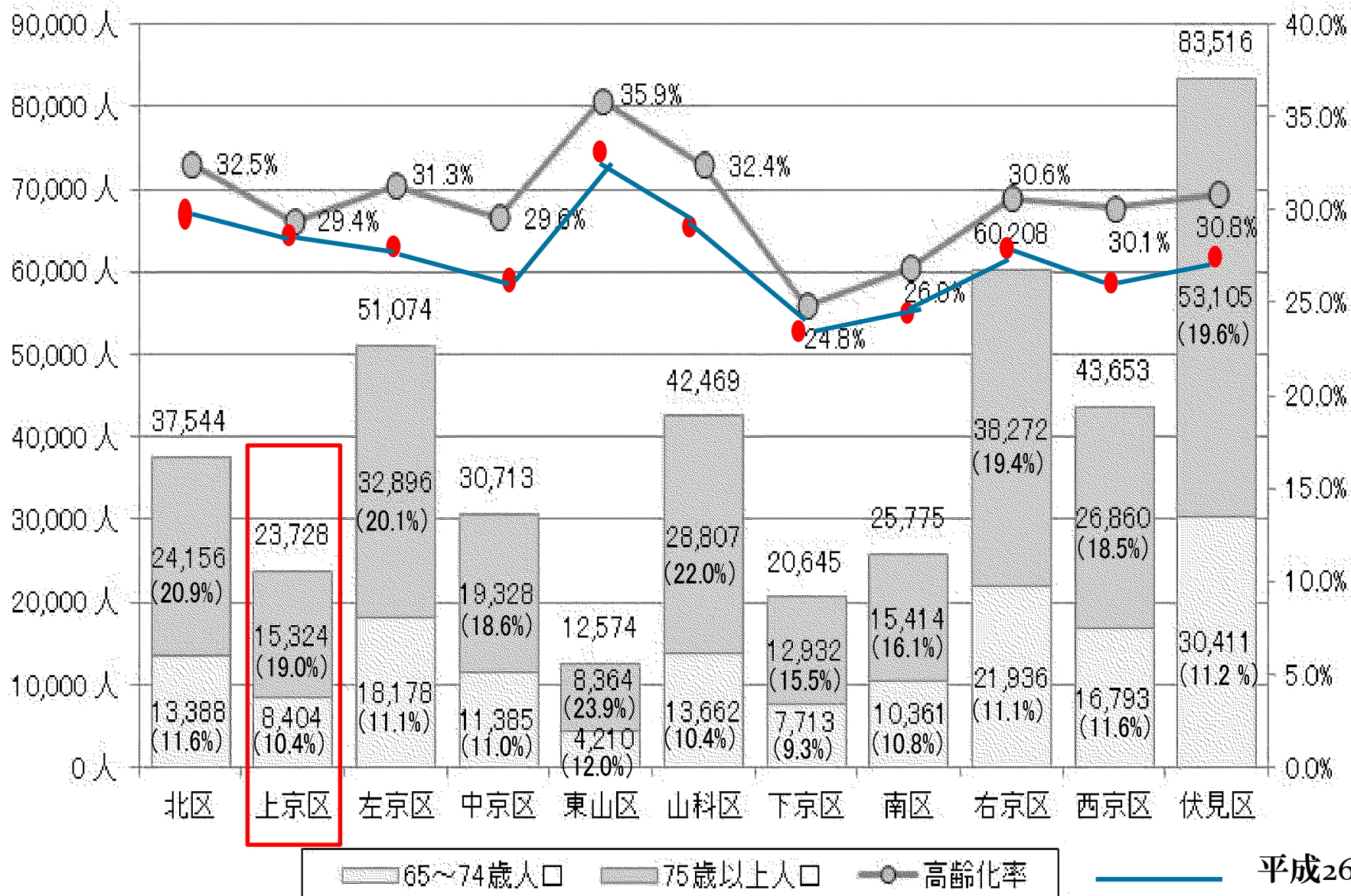


単身高齢者人口及び割合（平成27年国勢調査より）

		京都市	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見
65歳以上人口		393,143	33,130	23,032	45,287	26,945	12,815	39,472	19,139	24,521	55,107	38,695	75,000
単身高 齢者人 口	65歳以上	70,738	5,848	4,872	7,957	5,525	3,252	6,332	4,459	5,212	9,252	4,975	13,054
	65歳～74歳	32,129	2,374	1,875	3,267	2,369	1,389	3,170	1,935	2,575	4,326	2,414	6,435
	75歳以上	38,609	3,474	2,997	4,690	3,156	1,863	3,162	2,524	2,637	4,926	2,561	6,619
単身高 齢者の 割合	65歳以上	18.0%	17.7%	21.2%	17.6%	20.5%	25.4%	16.0%	23.3%	21.3%	16.8%	12.9%	17.4%
	65歳～74歳	8.2%	7.2%	8.1%	7.2%	8.8%	10.8%	8.0%	10.1%	10.5%	7.9%	6.2%	8.6%
	75歳以上	9.8%	10.5%	13.0%	10.4%	11.7%	14.5%	8.0%	13.2%	10.8%	8.9%	6.6%	8.8%

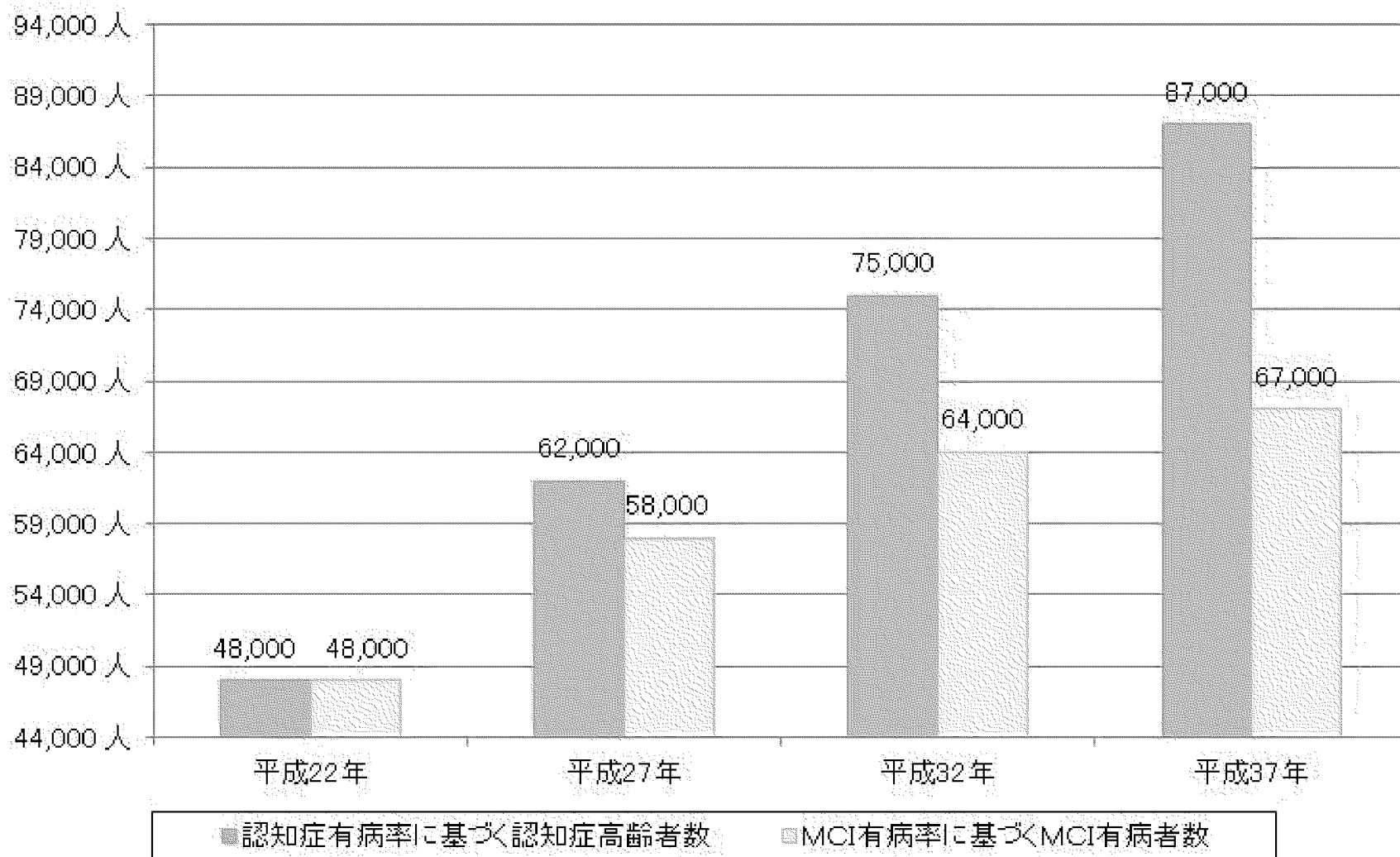
【参考】国：平成26年 17.4%

■ 行政区別高齢者人口及び高齢化率（平成37年）



平成26年

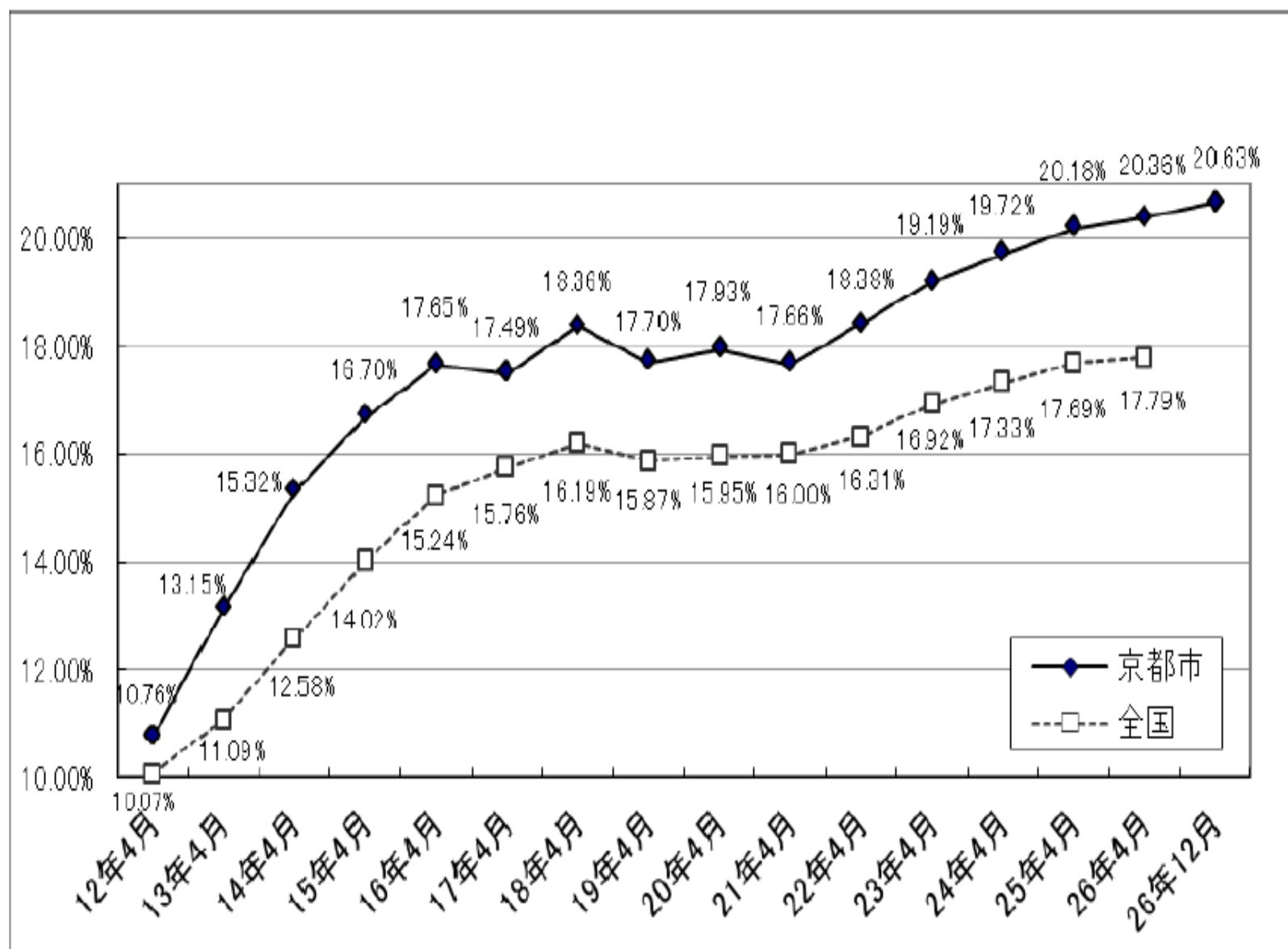
■ 認知症高齢者数の推計 (京都市)



MCI: (正常でもない、認知症でもない(正常と認知症の間)状態の者)

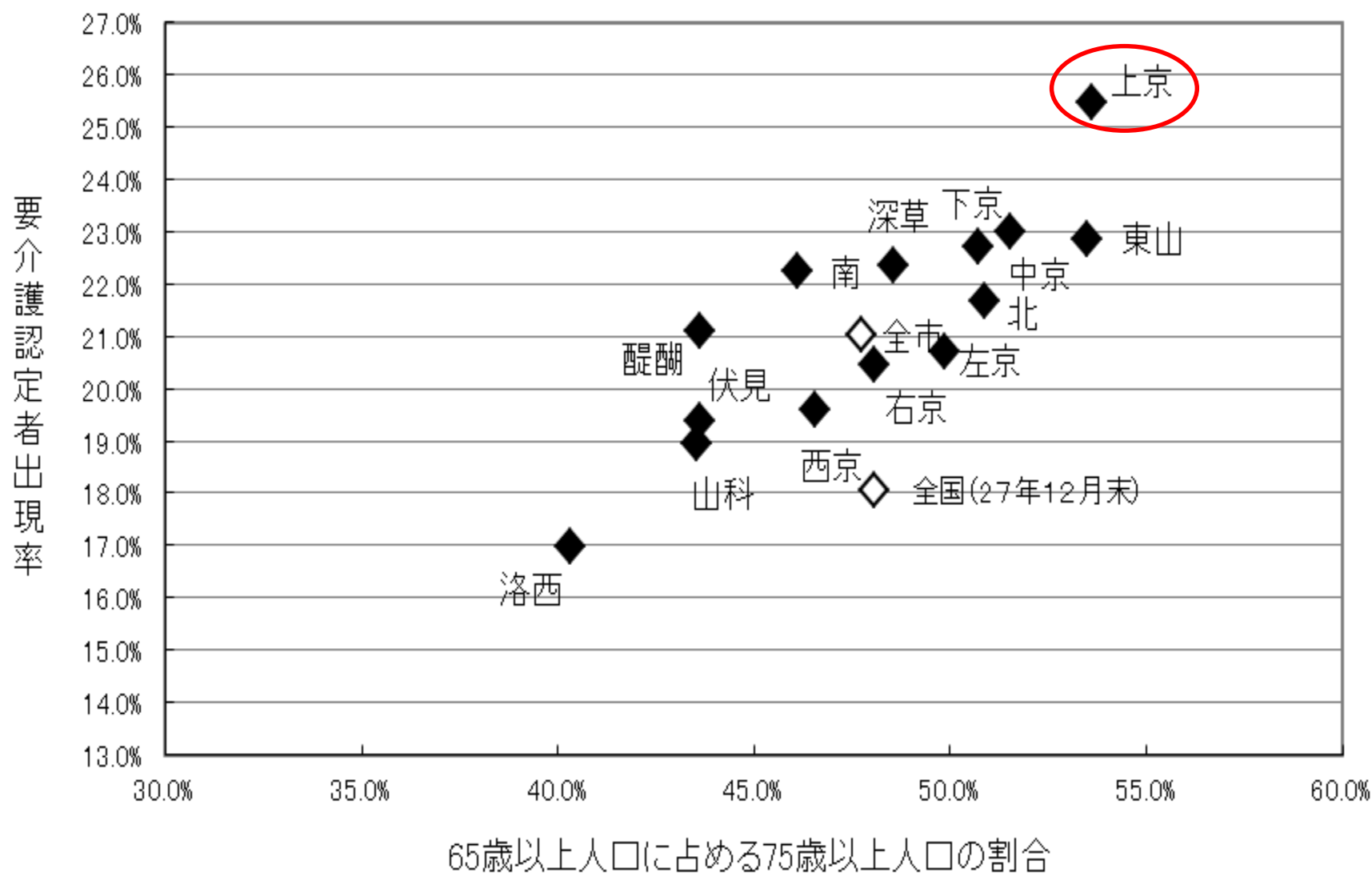
要支援・要介護認定者出現率の推移

(全国と京都市の比較)

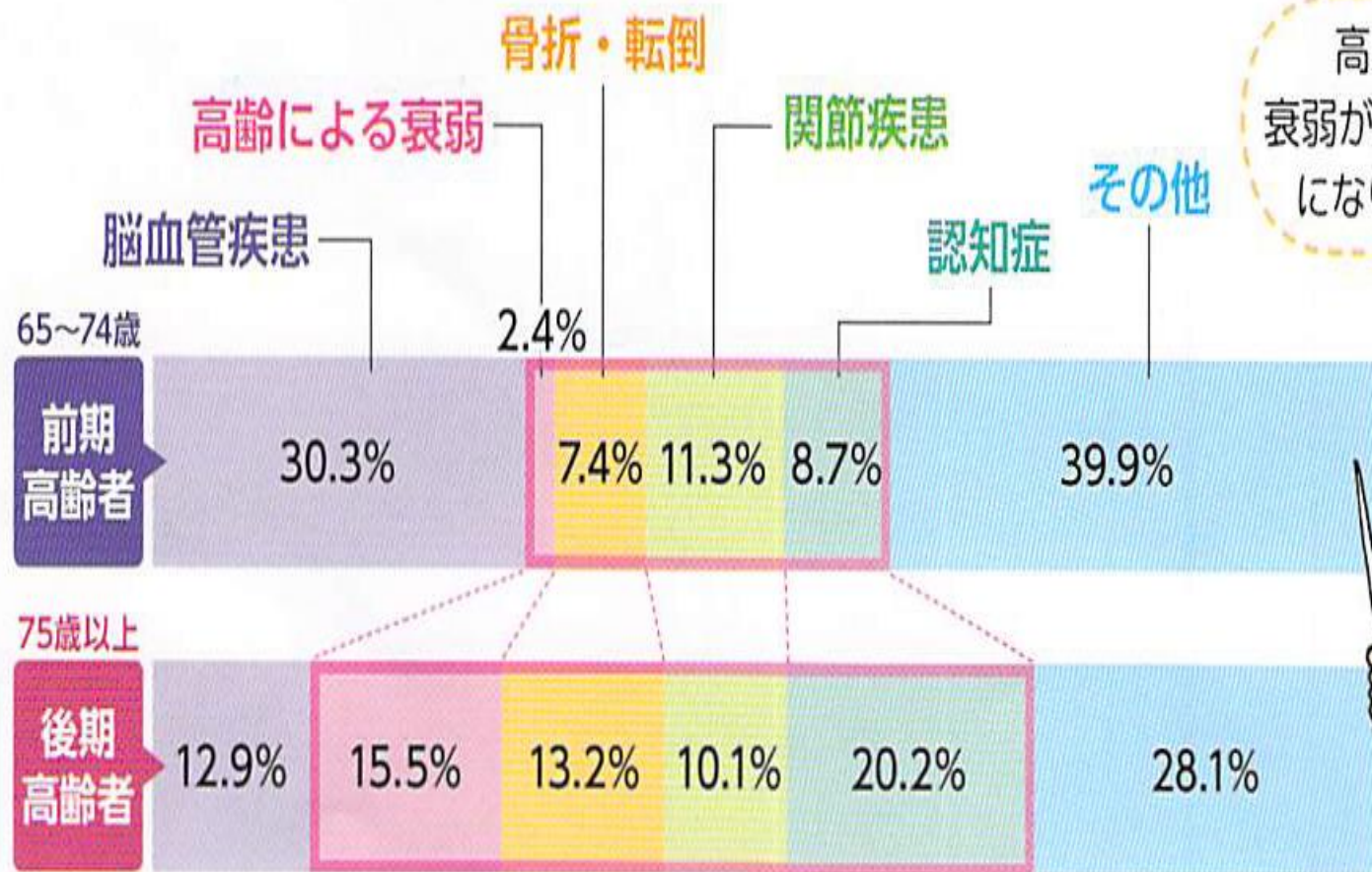


※ 政令指定都市20都市の平均出現率（平成26年4月現在）は18.57%

75歳以上人口の割合と要介護(要支援)認定者出現率(平成27年12月末)



●高齢者の要介護状態の原因 (平成28年「国民生活基礎調査」より)

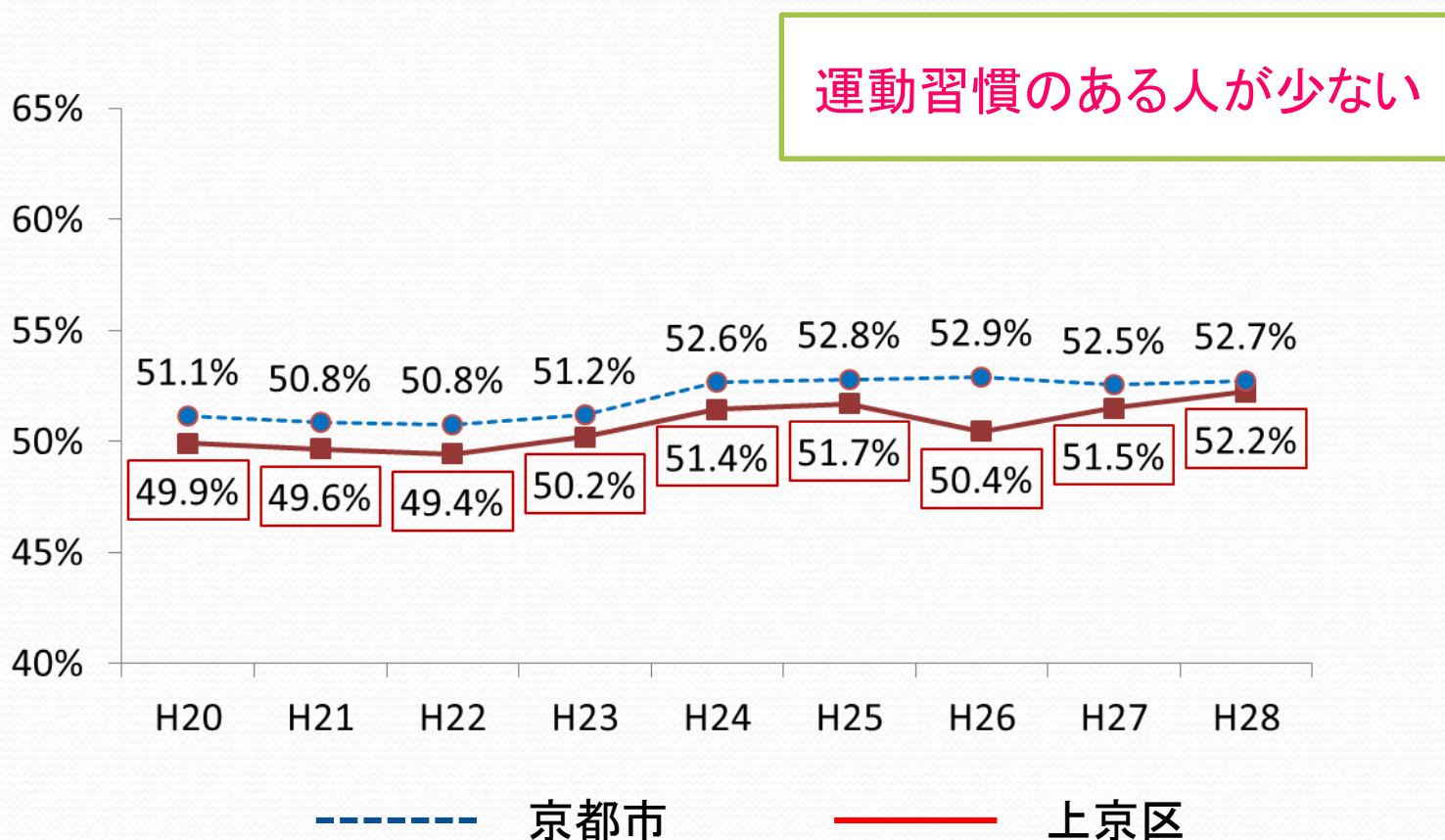


高齢になるほど、衰弱が原因で介護が必要になりやすくなります



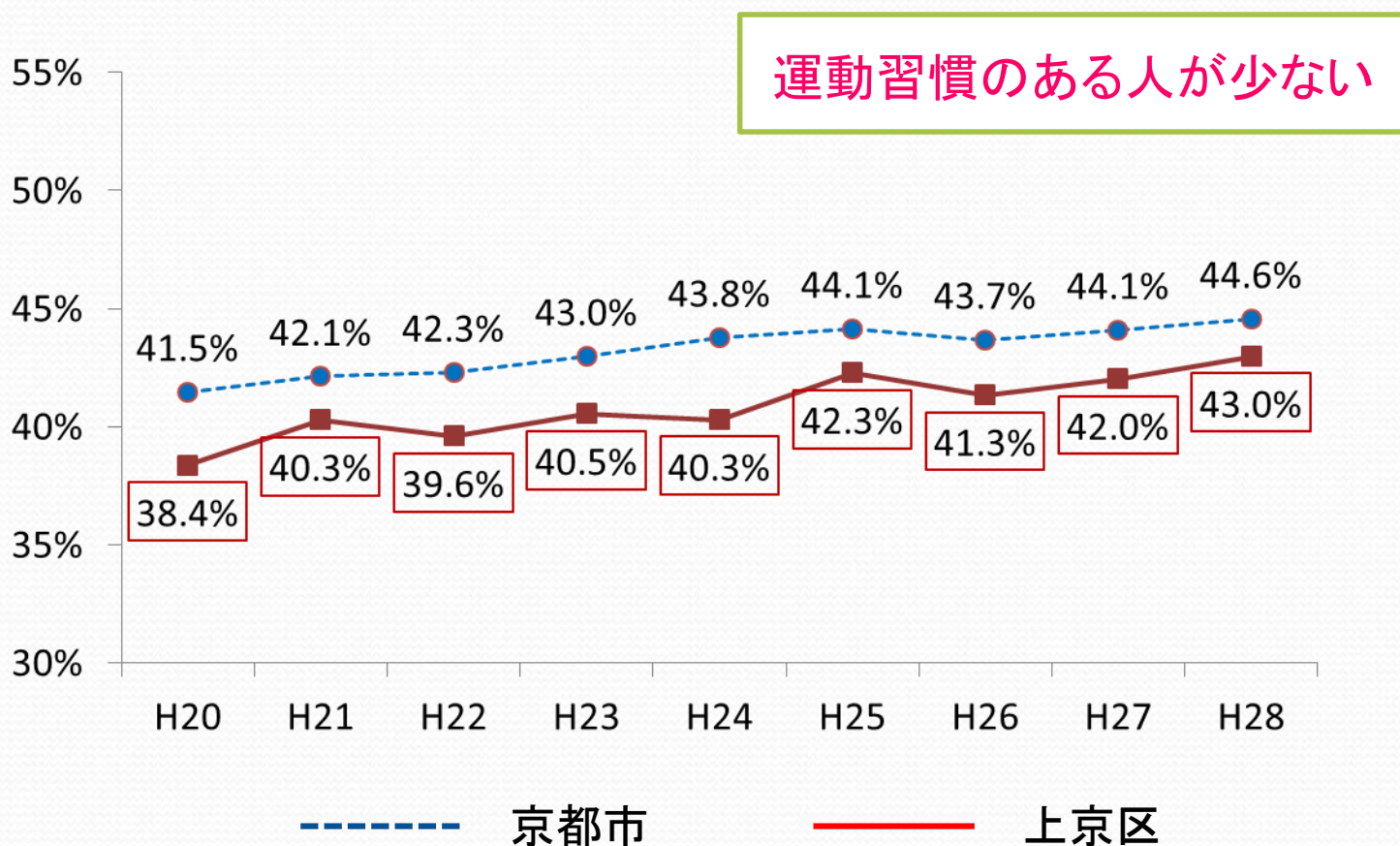
京都市国民健康保険特定健診受診者 質問項目 経年変化(全市・上京区)

「日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施していますか」の問いに、**はい**と答えたものの割合。



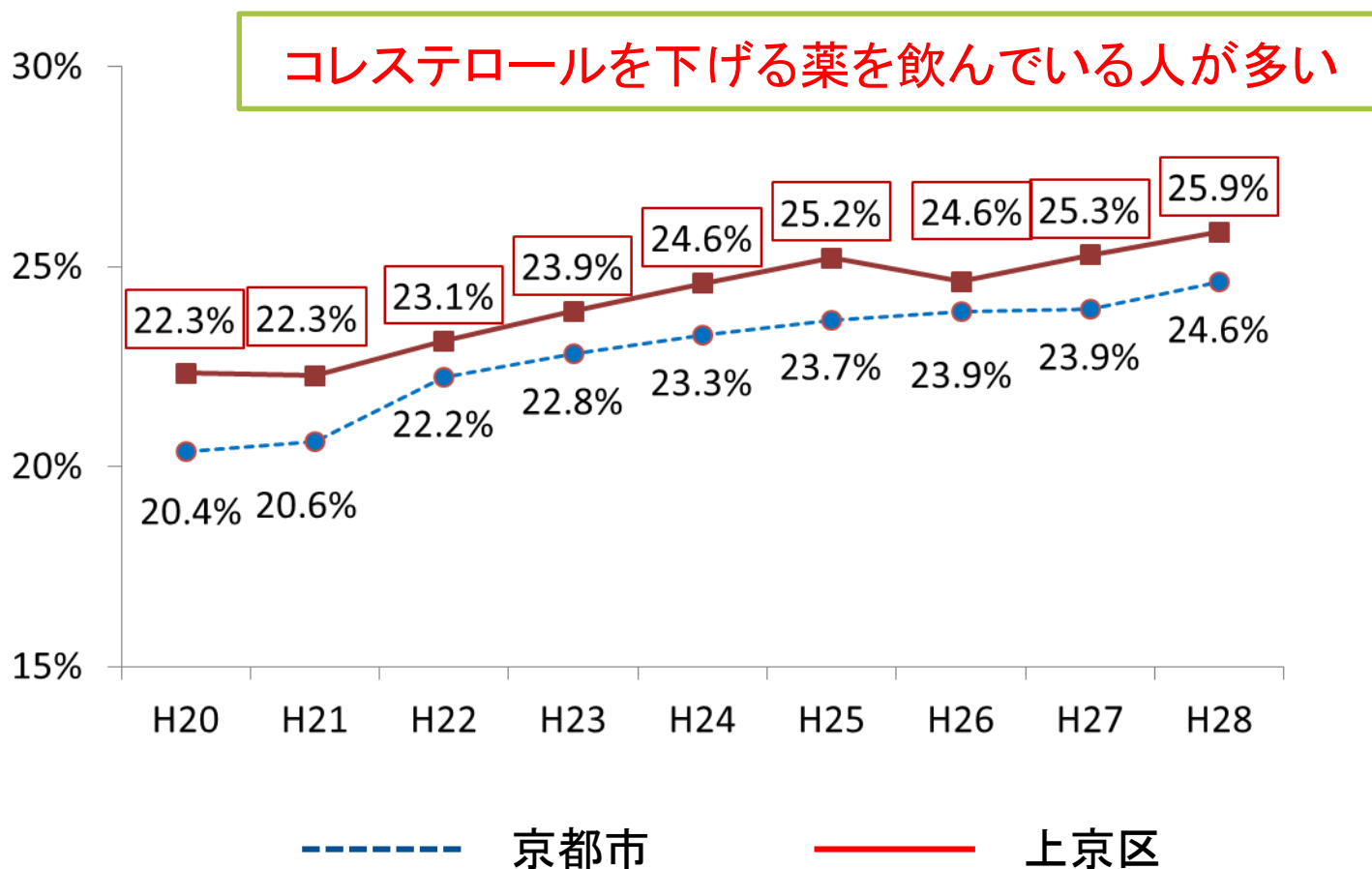
京都市国民健康保険特定健診受診者 質問項目 経年変化(全市・上京区)

「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上、1年以上実施していますか」の問いに、**はい**と答えたものの割合。



京都市国民健康保険特定健診受診者 質問項目 経年変化(全市・上京区)

「現在, コレステロールを下げる薬を飲んでいますか」の問いに,
はいと答えたものの割合。



健康課題

- 1 要介護認定者の出現率は市内で最も高い。
- 2 高齢者人口の増加の伴い、介護や認知症の課題の増加が予想される。
- 3 特定健診の結果、京都市平均値との比較では、
 - ①運動習慣のある人が少ない。
 - ②コレステロールを下げる薬を内服中の人が多い。
- 4 要介護状態になる原因として、
 - ①前期高齢者は、脳血管疾患、骨折・転倒、関節疾患（生活習慣病・ロコモティブシンドローム）
 - ②後期高齢者は高齢による衰弱、骨折・転倒、認知症が多い（フレイル）

必要な取組

- 1 健康寿命を伸ばすための取組として、生活習慣病予防、フレイル対策が必要である。

そのために、健康寿命を伸ばす『お・も・て・な・し』のキーワードを区民に広げていく。

- 2 日常生活の中で運動習慣をつける取り組みが必要である。

- ①ロコモ予防教室等の開催

- ②健康づくりサポーター“ジョイ健活”との協働

高齢福祉における地域課題と必要な取組

1 認知症が増加するため、認知症の理解を深め地域で

見守る体制づくり，徘徊に対する対応，認知症の方を早期に発見し施策につなぐ取組が必要となる。

→ 個別・学区・区レベルの地域ケア会議において認知症に関する取組み・地域における見守り体制づくりを検討していく。

【参考】＜上京区の健康づくりのためのキーワード＞

★健康寿命を伸ばす「おもてなし」★

お： お口のお手入れ（噛むはたらきを保つ）

も： モリモリ食べよう（低栄養対策）

て： 手足を使おう（運動強化）

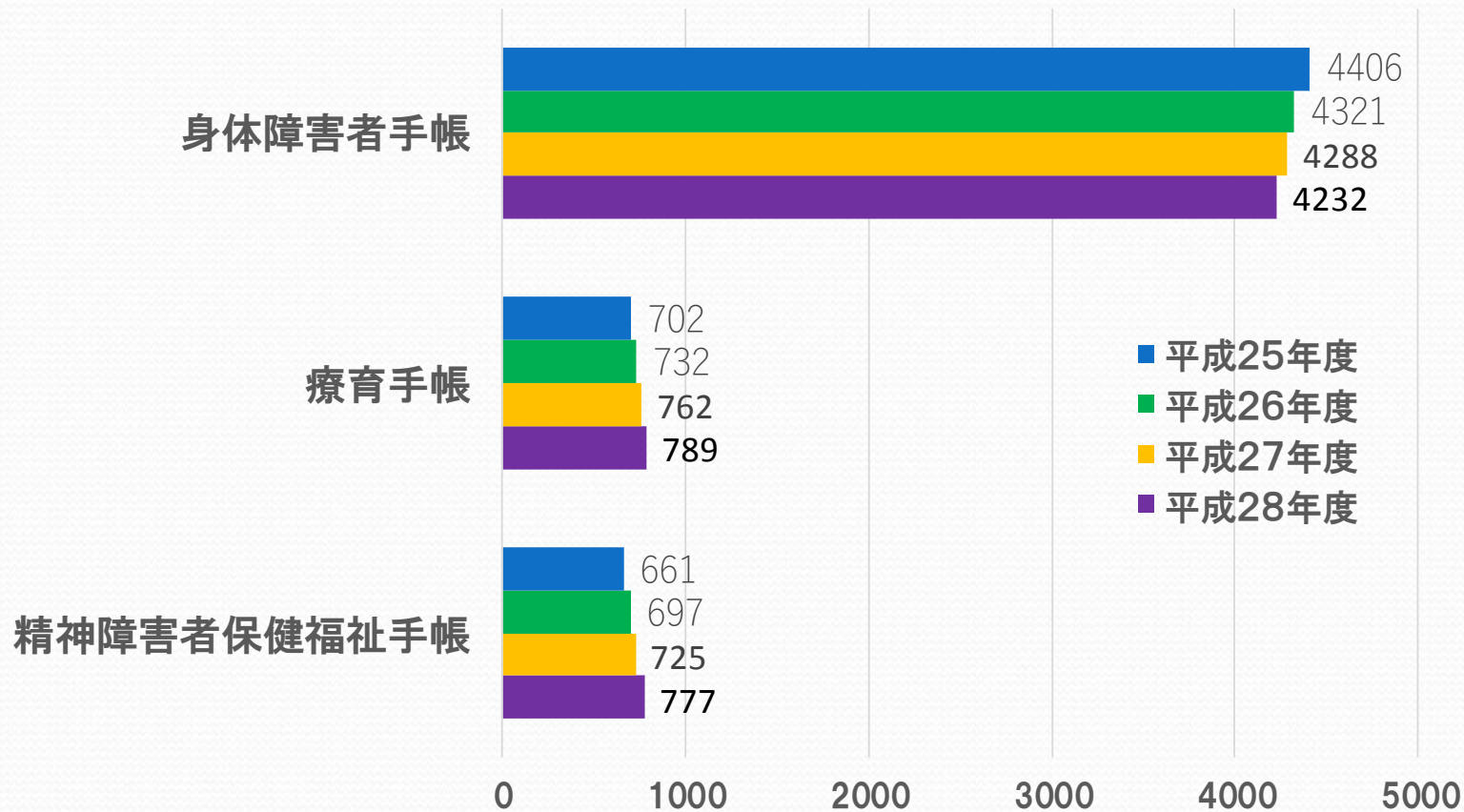
な： 仲間をつくろう（うつ，とじこもり対策）

し： 趣味をもとう（認知症予防）

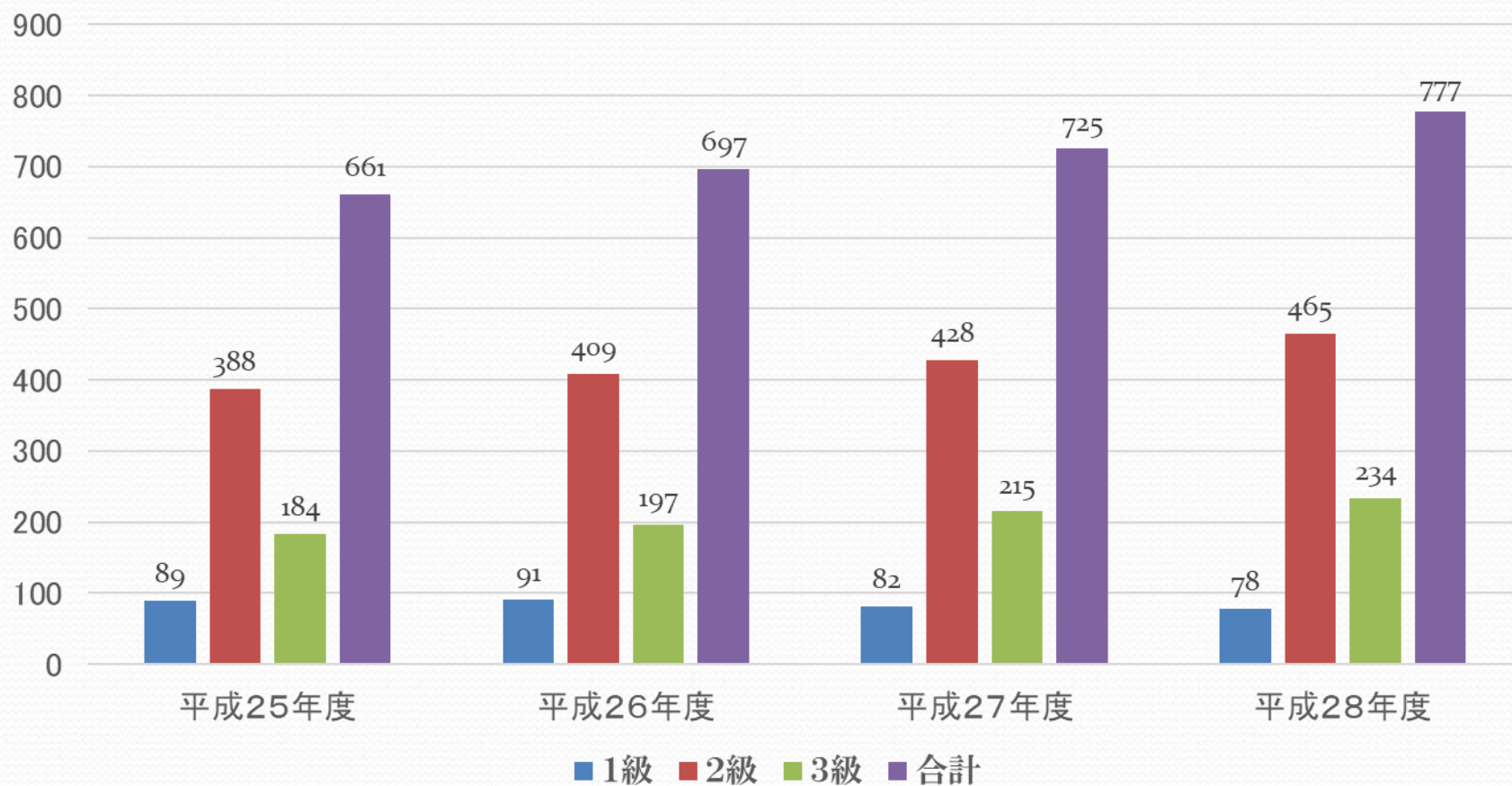


障害保健福祉分野

身体障害者手帳・療育手帳・ 精神障害者保健福祉手帳交付状況 (上京区)

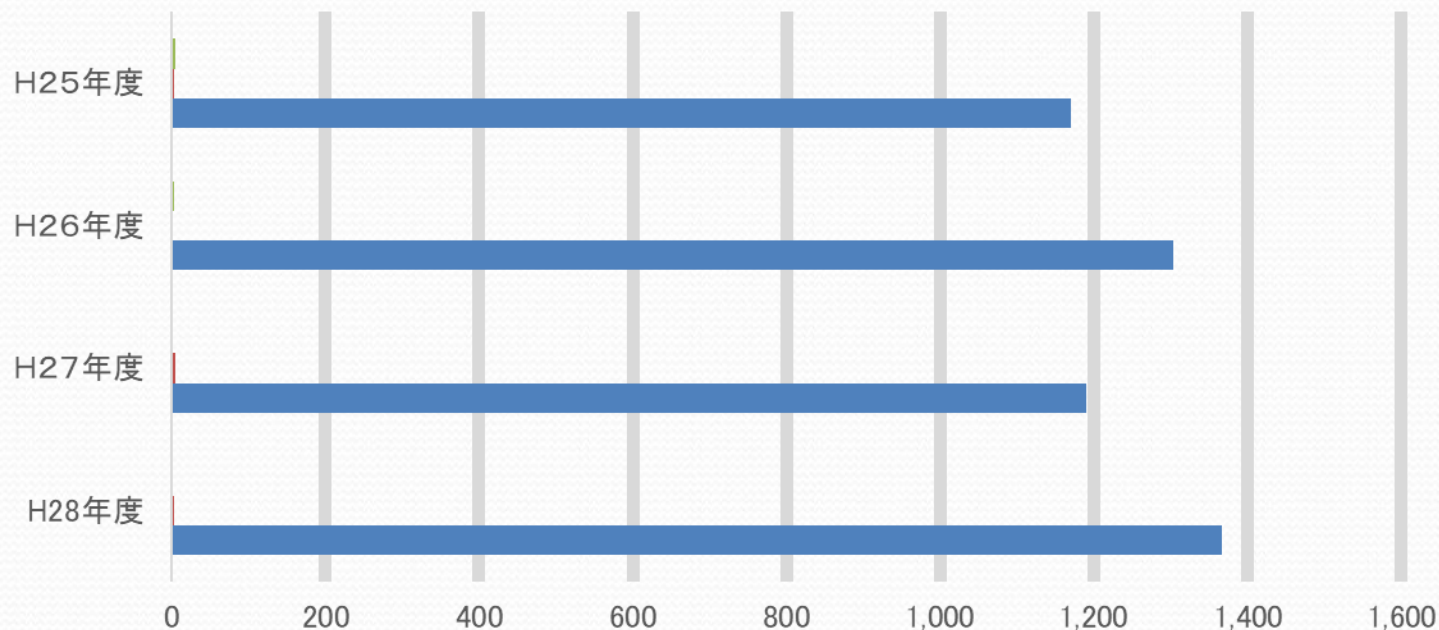


精神障害者保健福祉手帳交付数(上京区)



精神通院医療承認状況(上京区)

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
1, 171人	1, 303人	1, 191人	1, 366人



障害者手帳及び精神通院医療の 状況について

- 身体障害者手帳の交付数は、漸減している。再認定制度の導入により、手帳返還となる方もいるため、そのことも減少の一因と思われる。
- 療育手帳の交付数は毎年30人、精神障害の手帳も毎年30人～50人ずつ増加している。
- 精神の通院医療の承認数は、直近3年間で約200件増加している。平成28年度は、約1,400人の方が利用している。

指定難病医療費助成(上京区)

申請区分	平成28年 (4月～12月)	平成29年 (4月～12月)
新 規	80人	77人
継 続	670人	656人
計	750人	733人

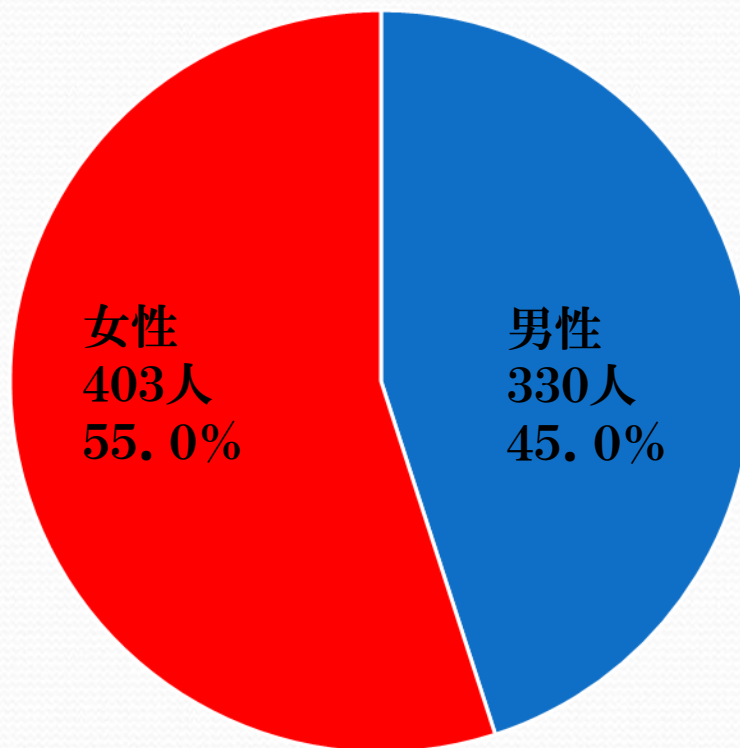
指定難病医療費助成(上京区)

疾患別人数

疾患名	平成28年 (4月～12月)	平成29年 (4月～12月)
パーキンソン病	153人(20.4%)	144人(19.7%)
潰瘍性大腸炎	113人(15.1%)	111人(15.1%)
全身性エリテマトーデス	38人(5.1%)	35人(4.8%)
その他	446人(59.4%)	443人(60.4%)

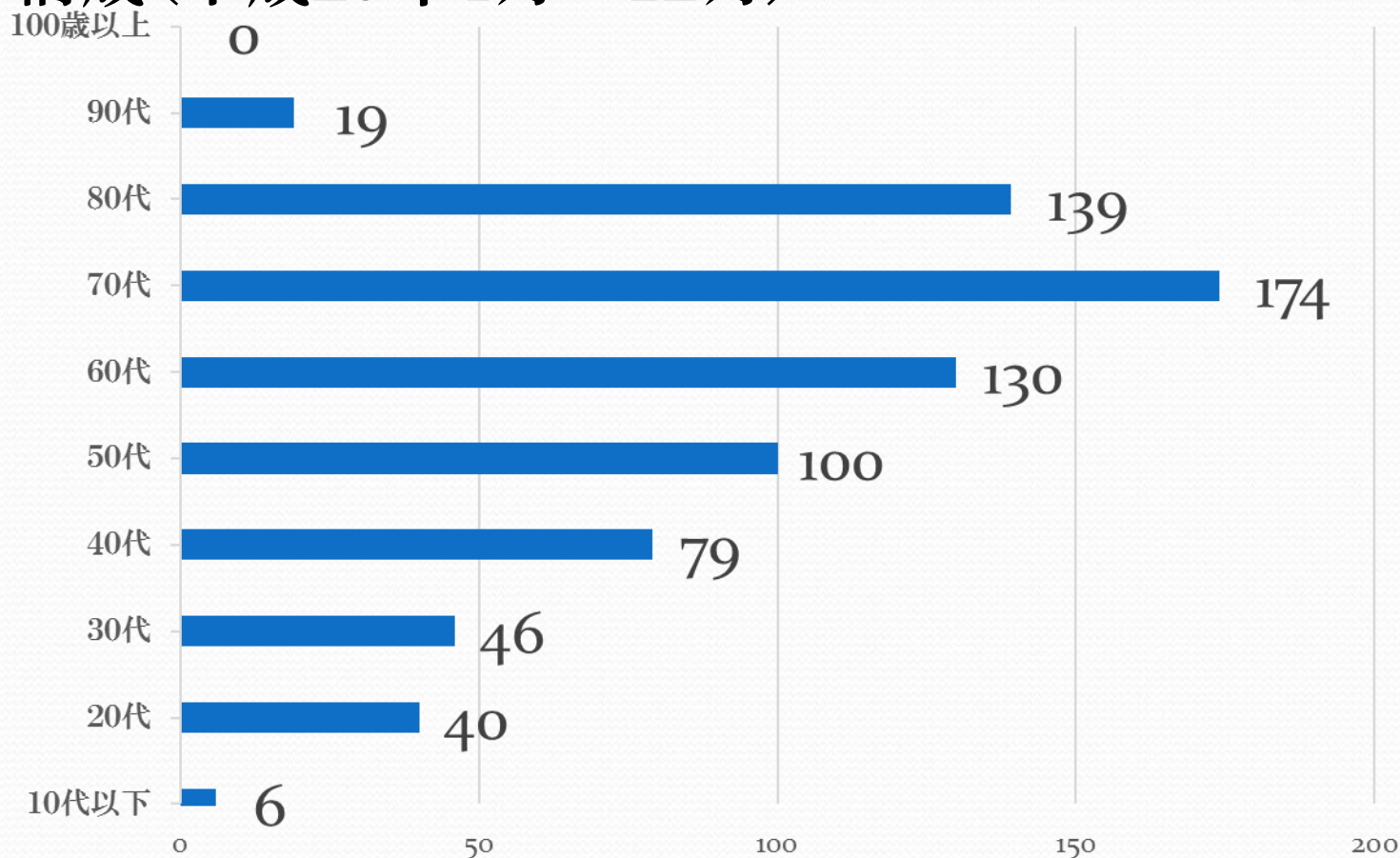
指定難病医療費助成(上京区)

男女比(平成29年4月～12月)



指定難病医療費助成(上京区)

年齢構成(平成29年4月～12月)



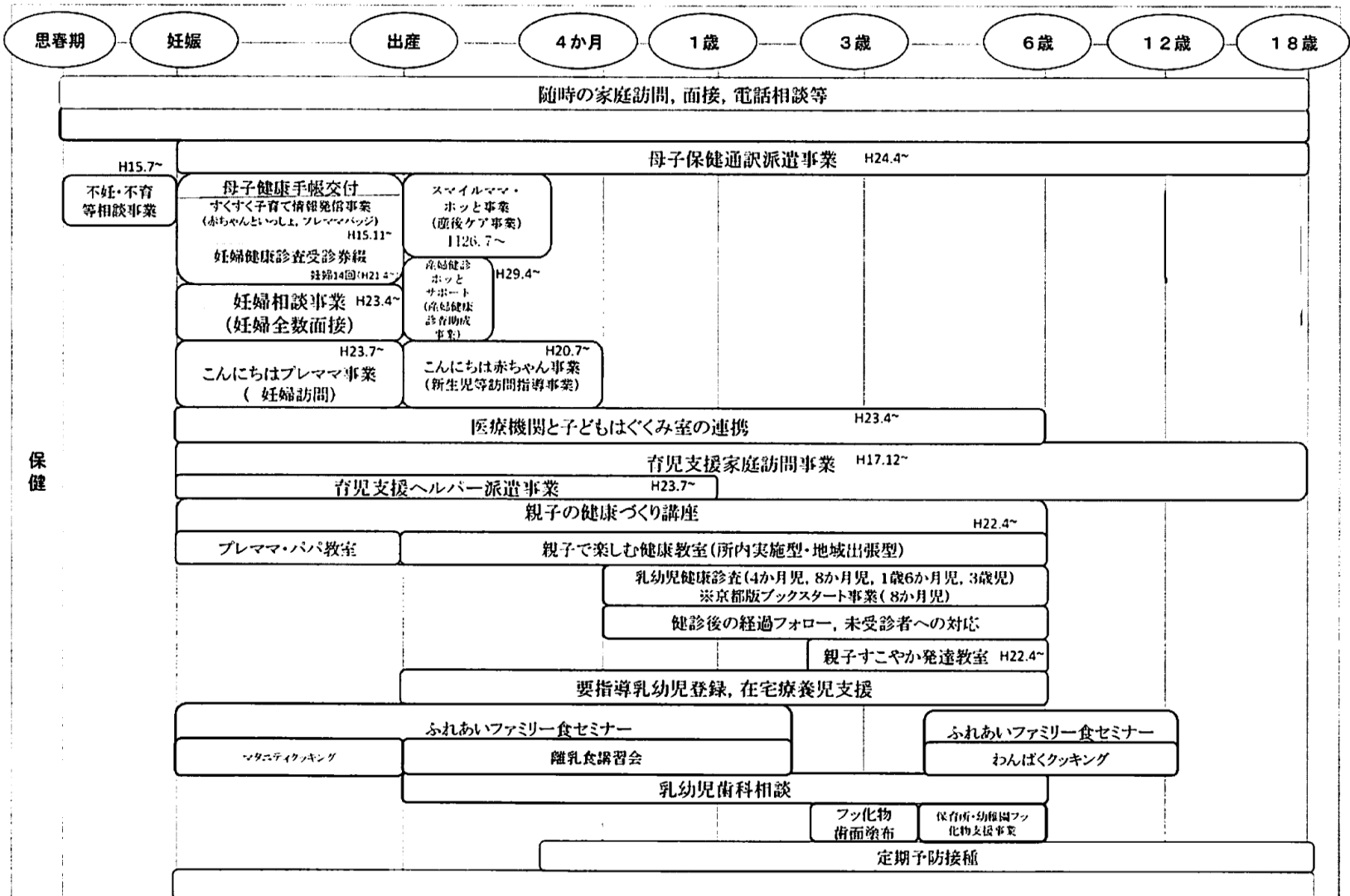
課題及び必要な取組

- 1 精神(こころ)の不調は、人生のどの時期においても起こりうる。上京区においても精神科の通院医療や精神障害の手帳の交付数は、年々増加している。
 - 症状があればまず相談し、必要な受診をすること、また周囲の人の対応が非常に重要であることについても上京こころのふれあいネットワーク等を通じて啓発していく。
- 2 在宅の難病患者の高齢化
 - 病状が不安定であったり、在宅での介護力が不足する場合については、定期的な訪問により、社会資源の活用を図りながら、療養生活の継続支援に取り組む。

母子保健分野

～虐待未然防止のための主な取組み～

京都市母子保健施策一覧



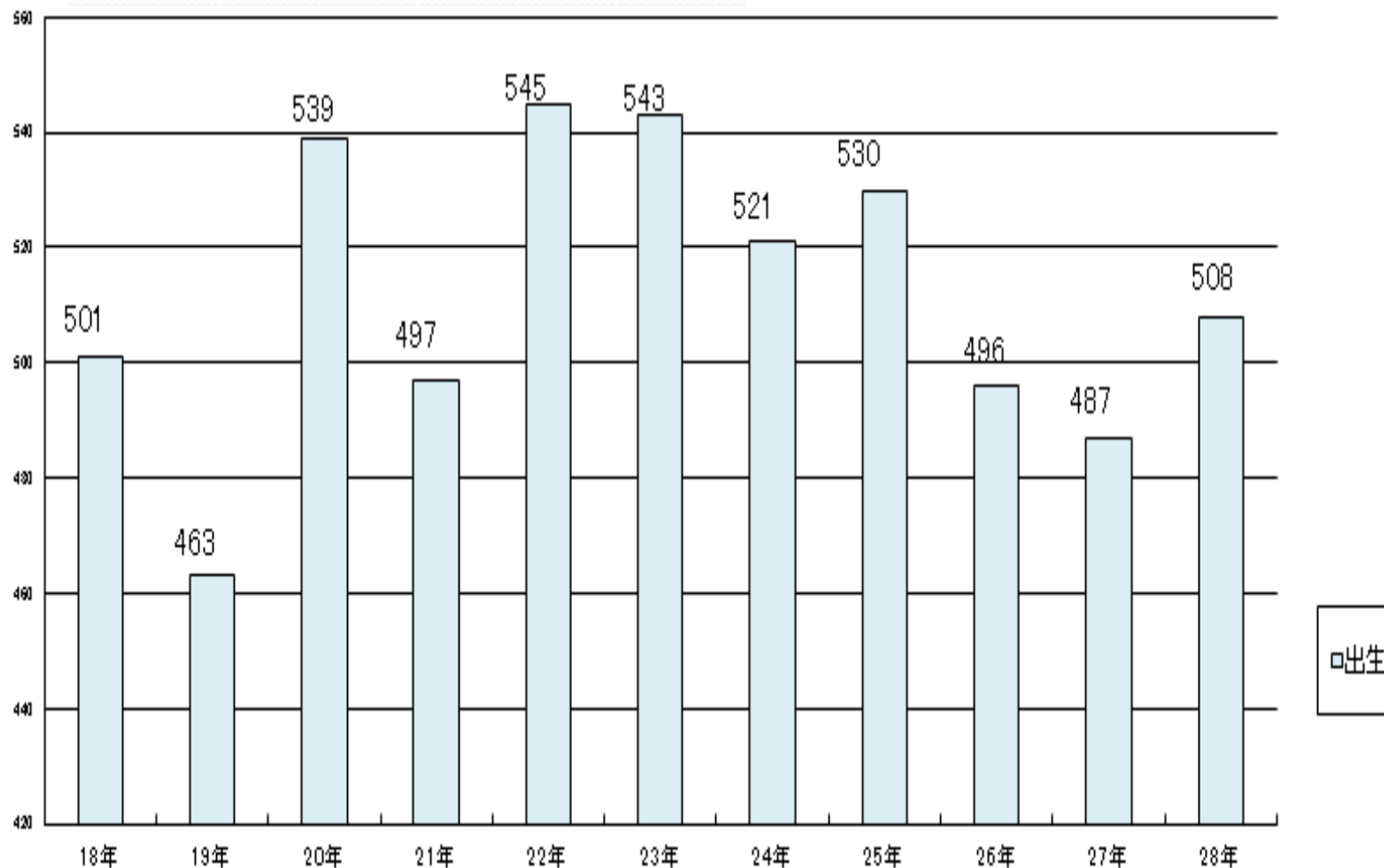
初妊婦等家庭訪問

	母子健康手帳 交付時面接数	訪問件数
28年度	523	188
27年度	526	194

- すべての妊婦に保健師が面接し、ハイリスク者の見極めを行う。
- ハイリスク者（多胎，ひとり親，母の疾患，外国籍，兄弟に虐待登録あり，等）は保健師が対応する。

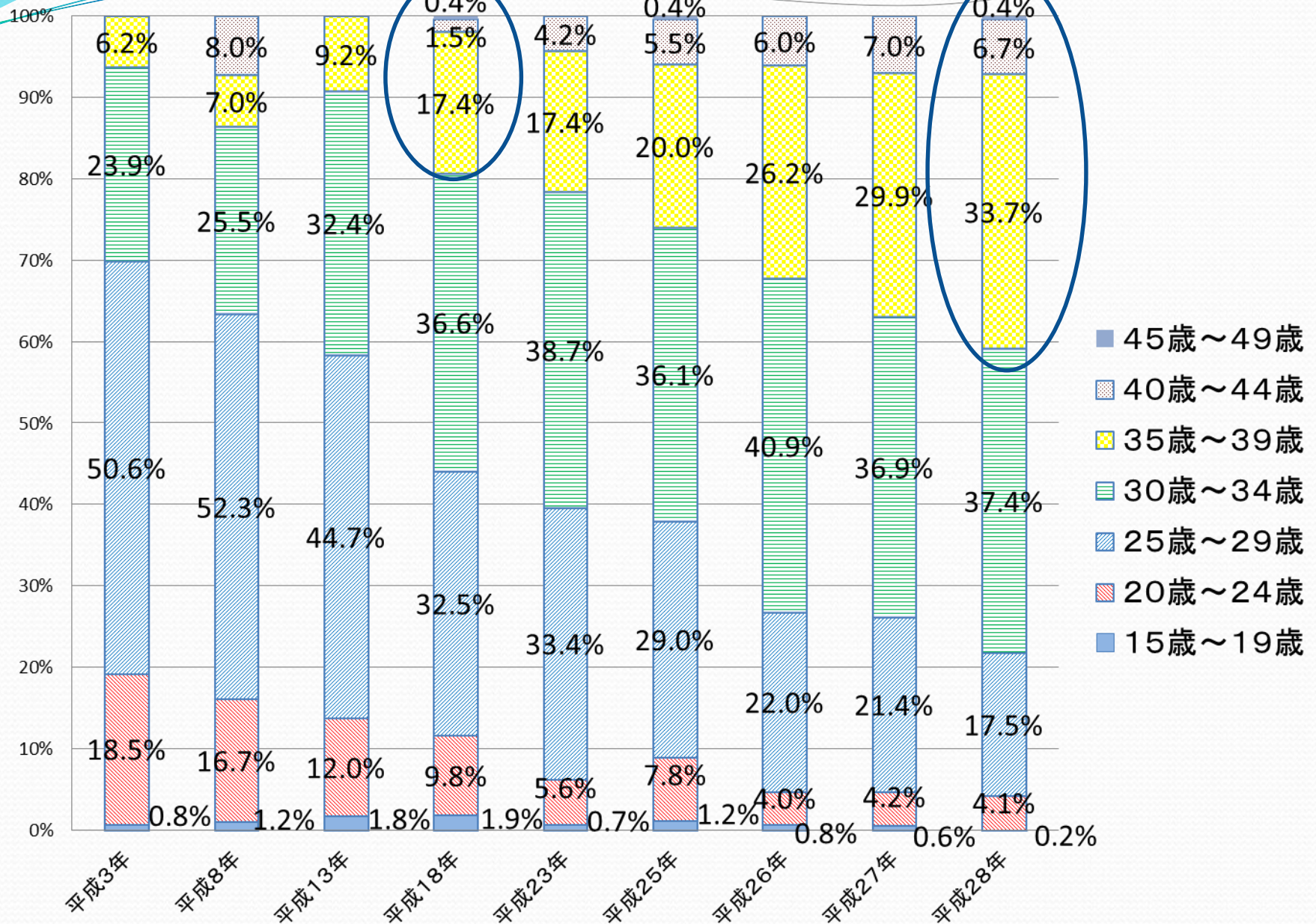
出生数推移

(人)



平成28年度 保健統計年報(上京区役所保健
福祉センター)

第1子出生年齢の推移



こんにちは赤ちゃん事業（新生児等訪問指導事業）

	対象者数	訪問指導件数 (延)
28年度	470	515

- 目的：乳児家庭の孤立化を防ぎ，育成環境を整え，適切な支援につなぎ，乳児の健全な発育と母親の健康増進を図る。
- 対象者：生後4ヶ月までの乳児のいる全ての家庭とその母親（訪問実施率 95%）
- こんにちは赤ちゃん事業検討会：月1回実施
- 評価会議：年1回実施

産後健診ホッとサポート事業（H29.4～新規）

情報提供数	37件
訪問件数	37件
継続支援件数	15件

（平成29年4月～11月末現在 出生数の約1割）

- 目的：産後の初期段階における母子への支援
- 対象者：医療機関での産後健診でEPDS（エジンバラ産後うつ質問票）が高得点であった者
- 対応結果を医療機関にフィードバック。

乳幼児健康診査

	平成28年度		平成27年度	
	受診者実数	受診率	受診者実数	受診率
4か月児健診	497人	99.6%	482人	99.2%
8か月児健診	459人	98.9%	500人	98.2%
1歳6か月児 健診	503人	98.4%	503人	97.9%
3歳児健診	526人	98.1%	488人	96.4%

- 対象者に個別通知
- 健診受診後，必要な対象者に継続支援
- 未来所者には当日中に電話で状況把握
- 連絡不能者へは家庭訪問等で状況把握

上京の子どもまつり2017

平成29年11月26日（日）開催

参加者6,000人，スタッフ600人

平成12年度から毎年実施。上京区独自の取組 実行委員会への参画は29団体



(目的)児童福祉のネットワークを構築し，区の民生委員，主任児童委員の活動の活性化を図る

区内小学校の体育館，舞台，校舎，グラウンドを使用してブースを設営し，歴史と伝統の継承，児童の健全育成，地域のふれあいに資している。

上京えんじえる “ぎゅうっと”ひろば

上京区総合庁舎の竣工を契機に
子育て中の親子の居場所づくり，
親同士のふれあいができる場を提供



企画型事業と「つどいっこ」(つどいの広場の出張版)を
それぞれほぼ毎月開催

企画型事業で運営主体となる団体は、主任児童委員，児童館，
はぐくみネットワーク委員会，保育所，幼稚園，
大学院心理学 研究課，社会福祉協議会，区役所

参加者は企画型事業 500人，「つどいっこ」228人(28年度実績)

上京えんじえる応援団 すくすくステッカーで 子育て支援事業



地域や商店街の方々とともに地域全体で
子育て支援の風土づくりをしています。

応援ブックには区内の子育て情報がぎっしり。
おうえんマップとえんじえるカードでお得な情報をゲッ
ト!

デジタルブック化でより利用しやすくなりました。

上京えんじゅる応援団 ～地域で支える～ すくすく子育て応援事業 (赤ちゃんお祝い訪問)



地域の子育て応援者(主任児童委員)が赤ちゃんの誕生した家庭を訪問し、地域ぐるみで子育てを支援する環境づくりを進めています。

訪問では、

- ・各種の子育て支援情報の提供や子育て相談を受けたり、
- ・地域の子育てサロンやつどいの広場等へのお誘いをしています。

※平成23年10月から上京区は全市に先駆けて開始しました。

健康課題

継続支援対象者の特徴

- 第1子出生年齢の高齢化に伴い、祖父母世代も高齢化し、体力的にも支援が難しく、支援が得られない。
- 祖父母世代の育児観との違いにストレスを抱える
- マニュアル通りにいかない出産・育児に不安が強く、自責の念に駆られる。
- 赤ちゃんのいる生活のイメージがなく、赤ちゃんへの対応に困難さを感じている
- 家族に共感してもらえない、協力が得られない
- 虐待通告対象者の大半が、父母に精神疾患あり、また、ひとり親家庭等である

必要な取組

- 1 こんにちは赤ちゃん訪問（新生児等訪問指導事業）
訪問事例等の報告及び処遇方針の検討 毎月実施
- 2 育児支援家庭訪問事業
継続支援による見守り，組織での支援方針検討
- 3 関係機関との連携強化
（障害保健福祉課，児童相談所，医療機関，地域の子育て支援機関）
情報共有，役割分担し，複数の目で見守り，必要なタイミングで必要な支援につなぐ

H30年度 上京区運営方針 重点方針3 「ともに喜び、支え合うまち」(案)

妊娠期・乳幼児

子ども・若者世代

働き・子育て世代

シニア・シルバー世代

切れ目のない妊娠期からの子育て支援
～児童虐待の未然防止～

母子健康手帳交付時妊婦面接

思春期健康教育

こんにちはプレママ事業(初妊婦等家庭訪問)

産後健診ホッとサポート事業

こんにちは赤ちゃん(新生児等訪問)事業

乳幼児健康診査

育児支援家庭訪問事業

要保護児童対策地域協議会

上京えんじえる”ぎゅうっとひろば”

こころの健康(産後うつ)の啓発

健康寿命を伸ばすお・も・て・な・し
～地域と協働した健康づくり～

健康寿命をのばす「お・も・て・な・し」のキーワードを区民に広げていく

ロコモ予防教室

京の食文化と健康づくり講演会

商店街との連携による取組

「お・も・て・な・し」カードを用いて、区民にフレイル予防
を啓発

保健協議会役員への健康教室

地域の居場所等での健康教室(おもてなしパッケージ)

ふれあいまつりでのフレイル予防の取組

こころの健康づくり～こころのふれあいネットワーク～

認知症になっても安心して暮らせるまちづくり

ノロウィルス予防, 感染症予防の保育所や高齢者施設に対する啓発・研修